

特集 地域特産物を支える技術開発

地域特産物を支える技術開発

本県では但馬から淡路まで多様な気候風土の下、小豆やタマネギなど様々な特長ある地域特産物が栽培されている。さらに、これから新たな地域特産物として育てていくためには技術的な支援が必要な品目もある。また、優位性を強調するために栽培や収穫技術の改善を必要としている品目もある。

今回の特集では、コウノトリ大豆、高タンパク小麦「ゆめちから」、極早生タマネギ、コマツナ及び「美方大納言」小豆について、栽培技術を中心とした増収や品質向上が支援できる技術について紹介する。

福嶋 昭（北部 農業・加工流通部）
（問い合わせ先 電話：079-674-1230）

県北部地域向けの早生大豆品種として有望な「あやこがね」

県北部では、県南部と同様に大豆奨励品種「サチユタカ」が生産されている。しかし、収穫時期に降雨が多いため、刈り遅れが生じ、安定生産の支障となっている。「あやこがね」は、県北部地域に適した早熟かつ多収、高タンパク、耐倒伏性の有望品種である。

内容

「あやこがね」は東北・北信越地域で栽培されており、「サチユタカ」よりも早熟な品種である。播種は2013年6月25日に行い、播種密度は条間75cm、株間15cm（8.9株/m²）、2本仕立てとした。調査は大豆奨励品種決定調査基準に従い、生育及び品質特性を評価した。その結果、「あやこがね」は「サチユタカ」に比べて、17日早熟であった（表）。莢数、収量は「サチユタカ」に比べて多く、耐倒伏性を有した。生育中の障害、障害粒、品質、粗脂肪、粗タンパク質、全糖については「サチユタカ」と同程度であった。以上のことから、本品種は県北部地域の大豆栽培体系に合致する有望な品

種であると考えられた。

今後の方針

現在、当センター及び豊岡農業改良普及センター管内において、「あやこがね」の実証試験を実施している。「あやこがね」は長野県が1999年に育成した品種で、種子供給体制が整備されており、本年度の試験結果を踏まえ、県北部地域の「サチユタカ」からの品種転換について検討する。なお、「コウノトリ大豆※」としての利用も考え、JAでは産地品種銘柄の取得を目指している。

杉本 琢真（農産園芸部）
（問い合わせ先 電話：0790-47-2414）

※コウノトリ育む農法により栽培された大豆

表 県北部向け大豆品種の生育特性及び収量性の比較

品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	生育中の障害		主茎長 (cm)	株当り 莢数	子実重 (kg/a)	標準 対比 (%)	百粒重 (g)	障害粒				品質 しわ	粗 パ ^ク 質 (%)	粗脂 肪 (%)	全糖 (%)
			倒伏	立枯						紫斑	褐斑	裂皮	しわ				
あやこがね	8.02	10.11	0	0	60	57.7	42.8	111	30.9	1	2	1	1	4	46.1	19.7	21.2
サチユタカ(比)	8.07	10.28	1	0	66	45.2	38.4	100	35.1	1	1	2	1	3	47.2	18.8	20.9

生育中の障害、障害粒は観察により0（無）～5（甚）の6段階評価、品質は1（上上）～7（下）、子実中成分は近中四農研のNIR分析（乾物当たり）